

原強プ第18号
平成28年3月7日

島根県知事 溝口善兵衛様

中国電力株式会社
取締役副社長
原子力強化プロジェクト
渡部伸夫

島根原子力発電所における保守管理の不備等に関する
再発防止対策の進捗状況について（報告）

平成28年2月17日に開催された、第15回原子力安全文化有識者会議の議事概要について、平成22年3月30日付け消防第2738号および平成22年10月19日付け消防第1054号の申し入れに基づき、添付資料のとおりご報告いたします。

添付資料

第15回原子力安全文化有識者会議 議事概要

以上

第15回原子力安全文化有識者会議 議事概要

- 開催日時 平成28年2月17日(水) 14時00分～16時30分
- 開催場所 サンラポーむらくも(祥雲の間)
- 出席者 [社外委員] 梅林委員, 亀城委員, 高尾委員, 高橋委員, 豊田委員(座長), 野津委員
※山浦委員は欠席
[社内委員] 渡部原子力強化プロジェクト長, 清水副社長, 古林常務

○ 議事内容

1. 開会あいさつ(渡部幹事)

- ・ただいまから、「第15回原子力安全文化有識者会議」を開催する。
- ・本日の主要議題でもある低レベル放射性廃棄物の不正事案については、再発防止対策を策定し、昨年開催した2回の有識者会議において、委員の皆さまから大変貴重なご提言をいただいた。改めてお礼申し上げます。
- ・本日は、その再発防止対策について、これまでの実施状況と今後の取り組みについてご報告するが、策定した再発防止対策16項目のうち、今後も継続的に取り組むものも含めて13項目の対策を実施しているところである。未実施の3つの対策の内、設備を統合的に管理するシステムの改良については、ITシステムの改良ということで少し時間を要することから28年度中の完了を目指していくが、残る2つの対策については今月中に実施できるよう取り組んでいく。
- ・また、意識面の改革として取り組んでいる発電所員による地域社会とふれあい活動の状況だが、約550名の所員数に対して、何らかのふれあい行事に参加した延べ人数は約500名に達したところである。今後とも数もさることながら、中身の伴った活動に取り組んでいきたい。
- ・本日は併せて、島根原子力発電所2号機の新規制基準への適合性に関する至近の審査状況および安全対策の実施状況等についてもご説明をさせていただく。

2. 議事

- (1) 「低レベル放射性廃棄物のモルタル充填に用いる流量計問題」および「点検不備問題」に係る再発防止対策の実施状況・評価ほかについて
- (2) 原子力安全文化醸成に関する再発防止対策の平成27年度実施状況・評価・次年度計画等について
- (3) 中国電力の原子力安全文化醸成に向けた取り組みについて

資料に基づき、電源事業本部部長 本田および原子力強化プロジェクト部長 千葉から『低レベル放射性廃棄物のモルタル充填に用いる流量計問題』および『点検不備問題』に係る再発防止対策の実施状況・評価ほかについて「原子力安全文化醸成に関する再発防止対策の平成27年度実施状況・評価・次年度計画等について」および「中国電力の原子力安全文化醸成に向けた取り組みについて」を説明した。

主な意見は、以下のとおり。

[再発防止対策に関する意見]

- ・管理者責務に関する教育の受講者の感想で「他課の取り組み、マネジメントの意見交換が有意義」が最も多いが、このような「ナナメの関係」を作り出していくことが今回のような不適切な行動等

の抑止力になるかもしれない。

- よくやっているといつも感心しているが、大変だなども思っている。忙しいと優秀な人でもミスを起こす。「低レベル放射性廃棄物のモルタル充填に用いる流量計問題」については、再発防止対策も最終の段階に入っているのではないかと考えるので、そろそろ立ち止まって初心に帰るということも必要ではないか。一人ひとりが立ち止まって考えれば、自分のところでは起こさないという気持ちが出てくるのではないかという期待感もある。
- 対策も仕上げの段階に来ていると受け止めなければならないと思うが、それは「低レベル放射性廃棄物のモルタル充填に用いる流量計問題」についてであり、今後このような事案が起こらないようにするためには、社内が結束して意識を高めていくことが必要である。
- 意識・行動の変化に関するアンケートの結果について、「やや変わった」「あまり変わっていない」「全く変わっていない」との回答が多い結果が出ている。もっと「変わった」という回答が多くなるような取り組みが必要である。
- 原子力安全文化の日は皆が原点に立ち戻れる日として、重要な日であるのでぜひ継続してほしい。
- 地域の方からの声について、いただいたお客さまの声を職場で共有化する場合、今は便利になりメールで知らせることもできるが、フェース・トゥ・フェースで顔を見て伝えることを続けていただきたい。
- 業務改善提案が改善されたことについて、コミュニケーションの改善も一つの要因と考えられる。褒められて育ったり、意欲が増したりする人もいる。提案者には惜しみない拍手を送ってあげてほしい。

〔評価方法に関する意見〕

- 管理者の責務に係る自己評価の結果で、「できている」がほとんどだが、個人の性格で「できている」「できていない」の判断が変わるかもしれない。
- アンケートの「あなたの担当部署では、上司や他のメンバーに対して、おかしいと思ったことは、おかしいと言える雰囲気がありますか。」という設問について、上司に対する反応と他のメンバーに対する反応とでは異なる場合が想定される。上司と他のメンバーを分けた方がよいのではないか。
- 働くほこりについて、高いものを求められていると思うが、客観的な評価を行うためには他業種と比較した分析も必要ではないか。

(3) 情報提供：島根原子力発電所2号機新規規制基準への適合性審査状況ほかについて

電源事業本部担当部長 沖原から「島根原子力発電所2号機新規規制基準への適合性審査状況ほか」について情報提供し、質疑を行った。

3. 閉会あいさつ（渡部幹事）

取り組みの状況については今後も適宜、本有識者会議に報告し、有識者委員から提言をうけたい旨および有識者委員からの提言、議論に対するお礼を述べた。

以上